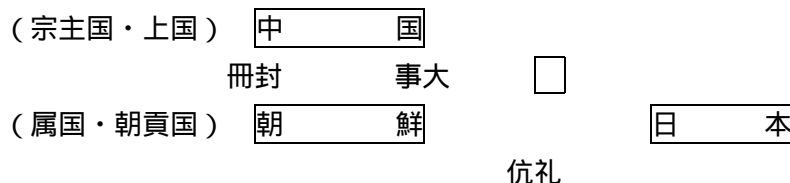


## 東アジア・トライアングルの歴史的展開

伊藤 一彦 (宇都宮大学)

### 1 伝統的中國・朝鮮・日本関係



「冊封体制」 集団安全保障体制 文禄慶長の役

朝鮮はその歴史の出発点において中国の侵略をうけ、中国との戦いのなかで発展した。その後も何度も中国の侵略をうけた。(旗田巍)

近代、朝鮮の中国からの独立志向 朝鮮朝から大韓帝国へ(1897年)

### 2 冷戦期の特殊な中朝関係

中国共産党員金日成、東北抗日連軍の部隊長として日本と戦う。

戦後国共内戦期、北朝鮮は中国共産党の後方根拠地となる。

朝鮮戦争

「血で結ばれた戦闘的友情」兄弟関係、ライバル

中ソ対立以後、北朝鮮は大国の狭間の小国外交展開 自主独立、主体思想、金日成神格化

### 3 北朝鮮核実験に対する中国の見方

- ・ 米国、核保有国に武力行使せず 北朝鮮、核保有志向
- ・ 北朝鮮、米国は攻撃せずと判断 核威嚇作用 通常兵器も威嚇 同盟国日韓反対 中露反対 イラク情勢、イランの核による挑戦、レバノン・イスラエル情勢混乱、による米国に対する制約
- ・ 中露、対北制裁困難

北朝鮮、中国は北核実験受け入れざるを得ずと見る 中国の北東方面の防衛に大きな貢献

中国、朝鮮半島情勢の安定重視(現状維持?)

### 4 東アジアの現在と日本の立場

日中「win win」関係の初めての成立、韓国の存在(1人当たりGDP30位台)

アメリカの影

「日米同盟」と「アジアの一員」 二者択一?

歴史問題の克服

## 講師略歴

伊藤一彦（いとう かずひこ）

宇都宮大学国際学部教授

1946年東京生まれ。東京大学教養学部卒業、同大学院国際関係論専門課程博士課程中退。  
1971年～95年国立国会図書館勤務、外交防衛課主査・政治史料課長等歴任。1995年4月  
から現職。専門は東アジア国際関係史。日本現代中国学会理事・社団法人中国研究所理事、  
『中国年鑑』編集代表。

共著書に、『現代中国研究案内』『近代日中関係史再考』『毛沢東 外交を語る』（訳書）な  
ど。『中国年鑑』1989～2006年版で、「中国外交概観」「朝鮮半島との関係」を執筆。